

# 中国における農民を主体とした 観光開発のあり方に関する研究

—— 広西チワン族自治区玉林市における農家調査結果を中心に ——

馬 嫻  
大 島 一 二

## 1. はじめに

### (1) 課題の設定

近年、中国における農村観光が農村経済振興の一環として重視されている。2018年に公表された中央政府の1号文件においては、農村におけるグリーンツーリズムについて、これを推進する新しい政策が打ち出された。さらに、2019年の1号文件においては、今後のグリーンツーリズムと農村観光改革の展開方向が主要テーマとして検討されている。それ以後、農村観光開発の促進を主内容とする政策が次々に打ち出されており、現在、農村観光の推進が中国政府の方針として大きく取り上げられている。

しかし、中国の農村観光は、たしかに急激な発展を遂げ、中国の農村経済の発展に大きな貢献を果たしつつあるものの、しばしば地元農民の経済的な権利が脅かされ、観光客の急増による現地の環境汚染等の問題の深化が発生している。とくに、観光開発により多くの農民が農地利用権を失い、収入低下に悩む農民が急増するという事態に帰結する場合がしばしばみられることも大きな問題である。この結果、観光産業は一定の発展をみたが、現地農民の所得と生活は相変わらず低い水準に留まるなど、農民自身の利益確保と、観光収益の分配をめぐる課題はより深化しているといえよう。

キーワード：中国、広西チワン族自治区、農村観光、農村振興、農家調査

このように、農村観光は近年急速に中国において関心を集めており、観光開発と農民問題に関する先行研究も少なくない。例えば、湯麗敏（2018）では「農家楽」（一種の農家民宿をさす）が発展することにより、周囲の観光業に参加していない農民たちの日常生活には、道路渋滞、車の廃気ガスによる大気汚染、観光客が投棄するごみの大量発生、安静な生活環境の破壊、観光開発による美しい田園風景の破壊などのさまざまなマイナスの影響が発生している状況を指摘している。また、ヤハヤ・イブラヒム（2010）では、高まる観光開発のために生じた突然の地価高騰が、地元社会に利益ではなく脅威をもたらし、同時に、地元民のライフスタイルの変化や伝統の価値の減退が、社会的ネットワークや近隣住民との関係を希薄にするなどの問題をもたらしている点を述べている。

こうした状況の中で、本論文でとくに注目している点は、中国の農村観光の発展に伴って発生している農民の貧困問題の現状、農民にとって不合理な利益配分の問題、農地の利用権を失った農民の利益保障問題、現地農民の再就職の際の職業訓練のあり方等の課題において、それらの問題がもたらされる要因と対策について事例分析から検討することである。そして、農民の社会保障の現状と、農民の経済利益の保証のあり方について考察することを目的とする。

本論文では、まず、調査対象地域の経済状況を確認し、現地の観光業の発展について述べる。さらに、事例分析として、広西チワン族自治区玉林市の農民に対して、観光開発方式、収益分配方式、直面する問題等についてアンケートを実施し、その分析により実態と課題を明らかにする。

## (2) 現地調査の概要

本論文における現地調査は、以上のような問題意識に基づき、筆者による現地農民を対象としたインタビューとアンケート形式で実施した。現地調査は2021年1月から5月にかけて156戸の農家を対象に実施した。

以下第1表には、アンケート対象者（計156人）のフェイスシートを示し

た。性別は男性が76人(48.8%)、女性は80人(51.2%)である。29歳以下が15.4%、30～49歳が26.9%、50～59歳32.1%、60歳以上が25.6%であった。学歴をみると、非識字者4人(2.6%)であり、小学校卒業37人(23.8%)、中学校卒業39人(24.9%)、高校卒業50人(32.1%)、大学卒業26人(16.6%)であった。

この第1表からわかるように、29歳以下の調査対象者の学歴は相対的に高い。これは国家の郷村振興政策の影響で、この地域では、多くの大学卒業生が農村の経済発展のために、農村において就職しているためである。また、30～49歳の対象者は、女性人口との比較で、男性人口が大幅に少なく、人口バランスを欠いていることがわかる。これは多くの若年男性層が都市への出稼ぎのために移動しているためと考えられる。しかし、50歳以上の人口では、絶対数が増大し、とくに30～49歳層とは逆に男性人口が多いなど、農村人口構成のアンバランスがみてとれる状況である。このように、この地域の農村の人口構成には一定の問題が存在していることが分かる。

第1表 調査対象農民のフェイスシート

(単位:人,%)

|    |      | 年齢階層  |     |        |     |        |     |        |      |       |      |
|----|------|-------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|------|-------|------|
|    |      | 29歳以下 |     | 30～39歳 |     | 40～49歳 |     | 50～59歳 |      | 60歳以上 |      |
|    |      | 人数    | 比率  | 人数     | 比率  | 人数     | 比率  | 人数     | 比率   | 人数    | 比率   |
| 性別 | 男性   | 9     | 5.8 | 5      | 3.2 | 11     | 7.1 | 33     | 21.2 | 18    | 11.5 |
|    | 女性   | 15    | 9.6 | 13     | 8.3 | 13     | 8.3 | 17     | 10.9 | 22    | 14.1 |
| 学歴 | 非識字  | 0     | 0   | 0      | 0   | 0      | 0   | 0      | 0    | 4     | 2.6  |
|    | 小学校  | 0     | 0   | 0      | 0   | 0      | 0   | 16     | 10.3 | 21    | 13.5 |
|    | 中学校  | 3     | 1.9 | 0      | 0   | 13     | 8.3 | 13     | 8.3  | 10    | 6.4  |
|    | 高校   | 11    | 7.1 | 8      | 5.1 | 11     | 7.1 | 15     | 9.6  | 5     | 3.2  |
|    | 大学以上 | 10    | 6.4 | 10     | 6.4 | 0      | 0   | 6      | 3.8  | 0     | 0    |

資料:アンケート調査結果に基づいて筆者作成。

## 2. 調査対象地域観光業の特徴

ここでは、広西壮族自治区統計局編（2019）に基づいて、まず、調査対象地域である広西チワン族自治区玉林市の概況を整理し、さらに調査対象地域の観光開発の現状について明らかにする。

### (1) 地域経済の概要

広西チワン族自治区玉林市は広西チワン族自治区の西南部に位置し、自治区の主要都市である南寧市から自動車で 2 時間程度の距離にある。亜熱帯の気候に属し、年間平均日照時間は 1,913.2 時間、年間降水量は 1,650 ミリである（玉林市統計局 2018 による）。

玉林市の GDP 構成は、第 2 表に示したように、2015 年に、第 1 次産業 17.9%、第 2 次産業 43.9%、第 3 次産業 38.1% で、第 2 次産業、第 3 次産業合計は 82.0% であったが、2019 年には第 3 次産業 52.8%、第 2 次産業 27.9%、合計で 80.7% と、第 2 次・第 3 次産業比率の合計はむしろ減少を示していることがわかる。このように、第 1 次産業は増加傾向であるが、第 2 次産業は減少に転じている。これにたいして第 3 次産業は一貫して上昇傾向である。

第 2 表 玉林市の GDP 構成 (億元, %)

|         | 2012 年          | 2015 年          | 2019 年          |
|---------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 総額      | 1102.08 (100.0) | 1445.91 (100.0) | 1679.77 (100.0) |
| 第 1 次産業 | 229.20 (20.8)   | 259.14 (17.9)   | 323.00 (19.2)   |
| 第 2 次産業 | 482.33 (43.8)   | 635.83 (43.9)   | 469.29 (27.9)   |
| 第 3 次産業 | 390.55 (35.4)   | 550.94 (38.1)   | 887.48 (52.8)   |

出所:玉林市統計局編(2013・2016・2020)

玉林市の人口は 736.97 万人、常住人口は 587.78 万人であり、このうち都市人口は 294.47 万人である。農村戸籍を有する人口は、2012 年で 48.5% であったが、2015 年には 42.9%、2019 年には 39.8% に低下している。農

村戸籍を有する人口の減少は、農民の都市地域への出稼ぎによる移動により、都市戸籍への転籍を希望する者が多いことに基づくものと考えられる。

また、第3表には、玉林市の一人あたり所得水準の変化を示した。都市住民一人当たり可処分所得は、2012年22,171元、2015年28,842元、2019年36,133元と、毎年大幅に上昇している。農民住民の一人当たり平均純収入は、2012年7,269元、2015年10,292元、2019年16,348元と、これも2012年の水準から大幅に上昇している。2019年の広西チワン族自治区の平均純収入は、都市地域34,745元、農村地域13,767元であるから、調査対象地である玉林市の経済水準は広西チワン族自治区のおよそ「中」または「中の上」程度と考えることができるだろう。

第3表 玉林市の基本経済指標

|                   | 2012年  | 2015年  | 2019年  |
|-------------------|--------|--------|--------|
| 人口（年末、万人）         | 682.7  | 710.7  | 736.9  |
| うち農村人口            | 331.4  | 305.3  | 293.3  |
| 都市住民一人当たり可処分所得（元） | 22,171 | 28,842 | 36,133 |
| 農民一人当たり純収入（元）     | 7,269  | 10,292 | 16,348 |

資料：玉林市統計局編（2013・2016・2020）

## （2）玉林市観光業の発展

中国において、玉林市はしばしば「天然の南国園村」と呼ばれるなど、自然資源、農業資源が豊富で、他の地域より農業観光の比較優位性を持っていると考えられる。実際に、玉林市の観光資源は豊富で、域内に120の名勝古跡があり、国家4A級観光地が11ある。こうした条件に基づいて、現在推進されている新農村建設の政策のなかで、現地の優れた農村資源を第3次産業である観光業を用いて積極的に開発し、とくにその中で農村観光産業の育成を推進しているのである<sup>1)</sup>。

1) 玉林市の観光業の発展については、馬嫚・大島一二（2021）「中国の農村振興における農村観光の機能と課題 ―広西チワン族自治区玉林市の事例を中心に―」

近年の玉林市観光業の収入総額と観光客数に注目すると、2014年から2018年に、観光業収入は150.1億元から581.4億元に増加し、観光客数も1653.8万人から5243.6万人へと大きく増加している。このように、玉林市は観光業の分野において優位性を有しており、農村観光を発展させる基礎条件を有していることが理解できよう。

玉林市経済は、改革開放政策実施以前においては、ほとんど観光開発は進展していなかったが、1978年の改革開放政策の実施以降、玉林市の観光開発は大きく発展し、ほぼ同時期に、製造業、交通・運輸業、エネルギー、通信業などの建設も進展している。とくに、製菓業は地域の基幹産業として発展しており、例えば、玉林市に本拠を置く製菓企業「玉林製菓」は、中国国内でも著名な製菓企業である。このように、地域内には大規模な漢方薬市場が存在し、市場での交易が発展し、取引は活発化している。

こうした市内の観光業が有する大きな潜在力に注目した玉林市政府は、1997年に、「玉林市観光業発展総体計画」を策定し、恵まれた自然資源を活用した観光開発が本格的に開始された（第4表参照）。さらに2000年

第4表 玉林市における観光開発政策の展開

| 年次       | 主な観光開発関連事項   |
|----------|--|
| 1997年    | 玉林市政府が「玉林市観光業発展総体計画」を策定。   |
| 1998年    | 玉林市委、市政府が「中国優秀観光都市発展計画」、「玉林市観光発展戦略」、「關於加快観光業發展的決定（観光業發展を加速する決定について）」を策定。 |
| 2000年12月 | 「中国優秀観光都市」に認定される。  |
| 2004年11月 | 「玉林中小企業博覧会」が開催される。来訪観光客が増加。  |
| 2015年    | 玉林市城郷計画設計院編「五彩玉林・田園都市計画」策定。  |
| 2018年    | 「生態・田園休閒健康観光区」「僑郷山水・休閒観光区」「客家温泉文化体験区」の建設の開始。                             |
| 2021年1月  | 玉林市政府が「玉林市郷村観光高質量發展實施要点」を策定。   |

資料：調査結果から筆者作成。

12月には中国国家旅行局によって「中国優秀観光都市」に認定され、中央政府、地方政府から観光開発のモデルとして支持されている。

続いて2021年1月には、玉林市政府が「玉林市鄉村観光高質量發展実施要点」（「玉林市農村観光の質の高い發展を実施する上での要点」以下「要点」とする）を策定した。この「要点」における諸政策の実施により、農村観光への投入の大幅な増額、さらに「失地農民」（観光開発や經濟開發によって農地の請負権を失った農民）を対象とした補助政策の拡充、農村観光の郷鎮企業への直接補助制度の拡充等の諸政策が本格化した。

この「要点」とは、以下の各項目を主な内容とする。

- ① 農村観光関連ビジネスにおいては、地理的に新しいエリアの開発を展開する。玉林市内に限定せず、周辺各県の農村観光資源の開発を進め、収益の継続的な拡大を目指す。
- ② 農村観光のブランド化を推進する。
- ③ 地域の歴史文化ファクターの活用を強化する。
- ④ 農村観光マーケティング戦略を推進する。
- ⑤ 消費拡大に向けた取り組みを具体化する。
- ⑥ 農村観光インフラ（水利建設、農地基盤整備、観光地域の安全・消防・医療に関する監督）の整備および従業者教育を充実させる。
- ⑦ 農村観光関連産業の開発による労働力雇用を促進する。

このように、各方面から農村観光への支援、補助を促進している。

### 3. 観光開発の進展と諸問題の発生・拡大

#### （1）新型コロナウイルスの感染拡大による經濟問題の発生と農民への支援策

2020年からの新型コロナウイルス感染拡大によって、玉林市の農村観光も停滞を余儀なくされた。農民の就職機会の喪失、失業状況はますます深刻なものとなっている。とくに、玉林市出身の農外就労機会を求める農民工は、その多くが都市地域で就業できず、地元に戻せざるを得ない状況に至っている。こうした状況に対して、2020年6月23日には玉林市において

「就業機会の安定と拡大に関する会議」が開催されたが、この会議では、農民工支援として、企業減税や社会保険料の減額、農民工の技能開発支援、職業訓練、失業保険金と労働保障権益保護の強化などが提起された。

この農民工支援策においては、玉林市の人力資源と社会保障局の施策として、農村観光業に関わる農民工の職業訓練が実施された。この職業訓練においては、まず、農民工が観光業や企業ニーズに見合った技能を身につけられ、有利に就職できるように施策を講じることが重視された。また、農民の関心に基づいて課程を設置することも重視された。さらに、指導方法も科学合理性を持ったものに修正された。

その後、2021年3月16日には、県底鎮において農民に対する職業訓練の一環として「高素質農民教育訓練」が実施された。しかし、第5表に示したように、この訓練はごく短い期間での開催（7日間）にとどまったため、現地ではその効果は疑問視されている。ただ、参加した多くの農民たちが訓練に費やすことのできる時間は一週間程度であり、既存の職場、自家の農業を放棄させての長時間の職業訓練は実質的に実施不可能であるという課題も浮き彫りになった。

この課程の設置目的は、農民の関心の内容に基づいて実演を伴ったより良

第5表 「高素質農民教育訓練」の課程表

| 期日    | 科目                 | 指導方法     |
|-------|--------------------|----------|
| 3月16日 | 農村観光に関する基礎知識       | 普及職員の講座  |
| 3月17日 | 農産物の安全問題           | 普及職員の講座  |
| 3月18日 | 農産物のネット販売          | 模範の実演    |
| 3月19日 | 果実の加工              | 視聴覚機材の利用 |
| 3月20日 | 農村観光の地域ブランドの構築     | 普及職員の講座  |
| 3月21日 | 農民の接客における技術向上      | 普及職員の講座  |
| 3月22日 | 五彩田園（大規模観光農園）の現地見学 | 参加者間の交流  |

資料：調査結果から筆者作成。



好きな農業観光の現場を体験し、知識を深めるというものであった。修了者はその知識、方法を自分の地域へ持ち帰って広めていくことを期待されている。参加費用は公費負担である。こうした職業訓練の機会は決して多くないため、多くの参加者からは玉林市人力資源と社会保障局にたいして、「7日間の課程で、農村観光に関する多くの知識を身につけることができた」との感謝が示されたという。

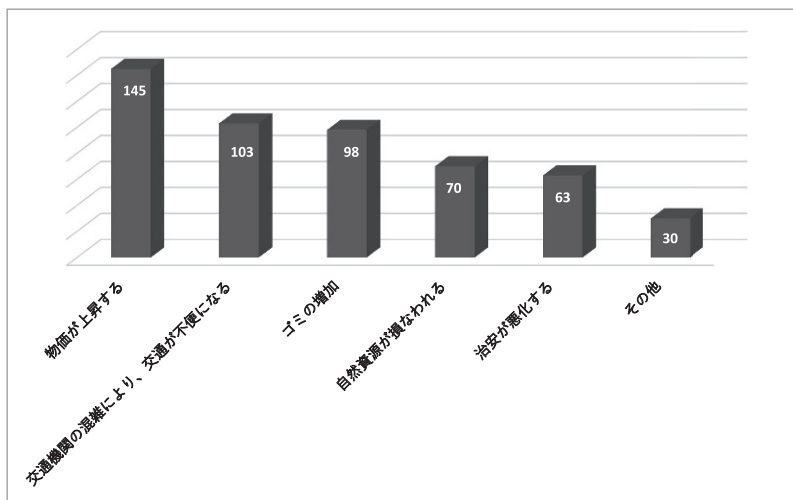
## (2) 観光開発と農民の生活環境の悪化

前述のように、玉林市においては、観光開発が急速に進められているが、その一方で観光開発に起因する諸問題も発生・拡大している。

本来、農村観光の重要な目的と考えられるのは、都市市民が農村において自然景観、農業景観を楽しみながら余暇を過ごすことであろう。しかし、多くの観光施設の建設が、急激かつ無計画、無秩序に進められることによって、現地の自然景観、農業景観が破壊される恐れが高まっている。いうまでもなく、自然景観、農業景観は再生不可能な資源であるので、現状の景観が維持できなくなり、既存の景観が次第に破壊されるに従って、観光資源自体が失われるだけでなく、現地の住民の生活環境の悪化が招来されることになる。

この点について、今回のアンケート調査結果からは、多くの農民が現在の居住環境、生活環境に満足していないことが明らかになった。回答の中で、農村観光の発展に伴い、生活環境や居住環境が悪化した点として以下の点があげられた。とくに多かった回答として、「(観光客の増加とともに)物価が上昇した」(28.5%)がもっとも多く、農民の収入はあまり増加しない状況で、地域の物価が上昇している問題が明らかになった。次に、「交通機関の混雑により利用が不便になった」(20.2%)、「ゴミが増加した」(19.3)%, さらに、「自然資源が損なわれた」(13.8%)、「治安が悪化した」(12.4%)などの結果であった(第1図参照)。こうした結果は、現在の農村観光の高度成長を踏まえると、一面でやむをえない側面もあるが、次第に居住環境、

第1図 農村観光による生活環境へ悪化影響(総回答数:509, 複数回答)



資料:聞き取りに基づいて筆者作成。

生活環境の面において、大きな問題が発生しつつあることが明らかになっている。

### (3) 生活苦に悩む失地農民の増加

観光開発に伴って、農地の収用が必要となった場合、農民はこれまで保有してきた農地利用権を土地委託管理合作社に委託して、その代償として補償金を受け取ることができる。これについて、大島(2012)では、多くの地域において地方政府や開発業者が半ば強制的に低い補償金額で農民からの農地収用を急速に進めたことによって、ほとんど満足な補償金を受けられないまま多くの農民が農地利用権を失い、貧困や生活苦に悩む農民が急増する状況が述べられている。

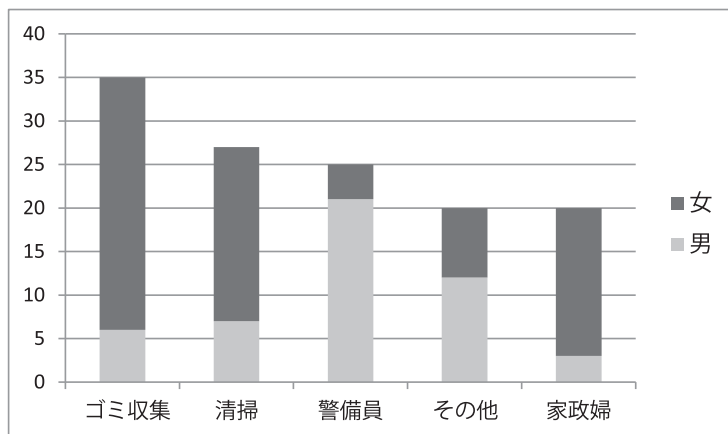
今回の現地調査においては、自良鎮龍鎮村の失地農民A氏を対象とした面接調査を実施した。A氏は2008年から農地利用権を自良鎮龍鎮村村民合作社に委託し、毎年1ムー当たり補償金900元を得ることができるシステムを

受け入れ、農地利用権を喪失した。しかし、実際には、A氏は委託後不十分な就業機会しか得られず、生活は徐々に困窮する結果となっている。十分な就業機会が得られない要因としては、A氏の学歴が高くないため（中学校卒業程度）、知識や技能が不十分で、低賃金または就労環境が劣悪な仕事を選択せざるを得ない状況に至ったためであるという。このように、失地農民の学歴、知識や技能などの不足問題は、農外の就業機会において不本意な就業がもたらされる主要な要因となっており、職業教育等の再教育機会の提供が課題となっていることがわかる。

また、失地農民のB氏は「就業後も劣悪な労働条件の職場で様々な問題が生じている。」と語った。それは、失地農民の法律知識が不十分なため、就業時の権利が守られないまま、離職するケースが多いことなどによるとされている。B氏は、その結果、貧困や生活苦に悩む農民が急増していると語った。

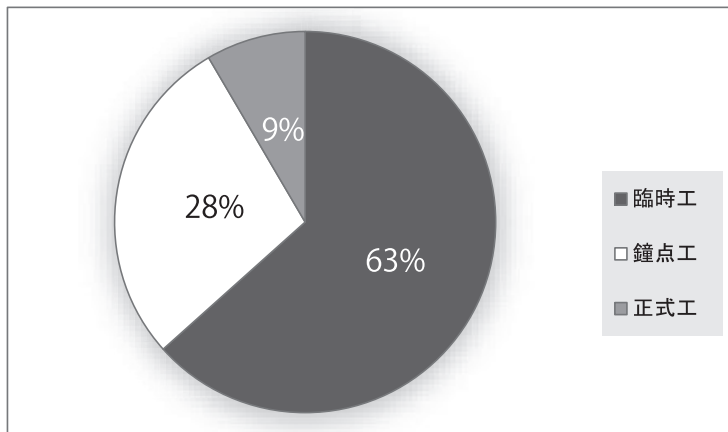
また、アンケート結果によると、失地農民の再就職職種については、警備員、廃棄物回収業、運輸業（乗用車等の運転）、建築業などであった（第2図参照）。そして、雇用形式は多くの場合臨時雇用である。調査対象の雇用

第2図 失地農民の就業職種



資料：アンケート調査結果から筆者作成。

第3図 農民工の雇用形式



資料: アンケート調査結果から筆者作成。

形式をみてみよう。第3図のように、「臨時工（アルバイト）」<sup>2)</sup>は就労人数の63%を占めており、「鐘点工（パート労働者）」<sup>3)</sup>が28%、これらの非正規雇用にたいして「正式工」は9%を占めるにすぎない。つまり、正規就業はごく限られており、非正規就業が圧倒的である。よって就業の安定性が低く、賃金水準も低いことがわかる。こうした事情により、貧困や生活苦に悩む農民が急増することに至っていると考えられる。

#### (4) 収益分配方式

現地におけるヒアリング調査によれば、第6表のように、農村観光の開発方式（出資，経営方式）は、①「政府+郷鎮企業」、②「郷鎮企業+農民」、③「政府+郷村企業+農民」の3つの方式が存在している。このなかで、とくに②「郷鎮企業+農民」の、企業と農民の共同経営体制による出資，経営方式が比較的多い。

こうしたなかで、現地調査からは、利益分配方式をみると、農民は主要な

2) 臨時工とは日本のアルバイト労働者に近い概念である。

3) 鐘点工とは日本のパート労働者に近い概念である。

第6表 農民調査の利益分配方式

| 農村観光施設等 | 事業内容                    | 開発模式        | 農民の参入事態            | 利益分配方式                        |
|---------|-------------------------|-------------|--------------------|-------------------------------|
| 五彩田園    | 農業知識の学習<br>農村祭事の体験      | 市政府<br>郷鎮企業 | 農地委託による<br>地代収入    | 市政府 25%<br>郷鎮企業 55%<br>農民 20% |
| 十丈村     | 農村の風土・民<br>俗文化などの観<br>光 | 村政府<br>現地農民 | 表演隊への参加<br>による雇用収入 | 村政府 75%<br>農民 25%             |
| 北流陶器小鎮  | 陶芸美術館<br>陶芸の体験教室        | 市政府<br>郷鎮企業 | 陶器の販売収入            | 郷鎮企業 65%<br>市政府 20%<br>農民 15% |

資料：聞き取り結果に基づいて筆者作成。

利益配分対象とはなっておらず、市政府や郷鎮企業の観光収入がかなりの部分を占めていることがわかる。つまり、多くの農村観光事業の事例において、住民の経営主体としての役割は非常に限定されている状況と判断できる。

#### 4. まとめにかえて

本論文では、広西チワン族自治区玉林市における農村観光の事例において、農民が主体となった観光事業の展開のあり方と農村経済の変化について、調査結果に基づいて検証してきた。

ここまでみてきたように、中国における農村観光にとって農民の主体的な地位は徐々に無視できないものになっており、今後もこの趨勢は変わらないと考えられる。しかし、農民自身の知識、学歴、技術能力等の不足などの要因により、農民は農地利用権の委託という形態で農村観光に関わっているものの、現実には低収入の職種への就業を余儀なくされ、収益の分配についても多くを得ることはできない状況となっている。

こうした状況下で、一方で観光開発により農民の生活環境、居住環境は悪化の一途をたどり、農民側からの強い不満の声が上がっている。これまでみてきたように、農民の主体的な地位の確立・強化および生活環境の改善は急

務であろう。

ここまでみてきたように、玉林市の事例からは、現在の農村観光開発の段階においては、失地農民の社会保障、当地農民への観光職業訓練機会の提供、農民の事業への積極的な参画など、いつかの大きな課題が残っていることが明らかになった。この点についての検証も今後の大きな課題であると思われる。

### <日本語文献>

大島一二（2012）「中国における失地農民の実態と課題」『桃山学院大学経済経営論集』第54巻第1号，pp 1～10，桃山学院大学。

大島一二（2016）「中国における余剰労働力問題の展開」『桃山学院大学経済経営論集』第57巻第3号，pp 42～45，桃山学院大学。

山田七絵・大島一二（2019）「中国農村経済，農家経済の変容と地域農業の衰退にかんする分析：山東省萊陽市における農家調査に基づいて」『桃山学院大学経済経営論集』第61巻第1号，pp 1～14，桃山学院大学。

田島重雄・稲泉博己（1990）「諸外国における農民施設教育に関する研究」『農村研究』69/70号，pp 279～283。

般若春鶴（2012）「中国における農民工の社会保障問題に関する一考察：就労・生活実態の分析を通して」『海外社会保障研究』（179），pp 81～83。

山村高淑（2004）「中国農村部における集落観光の開発方式と住民参与：雲南省麗江納西族自治県黃山郷白華行政村の事例」『国立民族学博物館調査報告』第51巻，第2号，pp 5～40。

湯麗敏（2018年）「中国における新型観光—「農家楽」に関する考察」『富山国際大学現代社会学部紀要』第11巻1号，pp 7-9。

劉丹・中山徹（2015）「中国東北部近郊農村における失地農民の就労状況及びその問題点に関する研究—朝陽市龍城区の実態調査」『日本家政学会誌』第66巻8号，pp 430～438。

ヤハヤ・イブラヒム（2010）「マレーシアの農村観光と島嶼観光—観光への住民の参加と観光のもたらす影響について」『立命館大学人文科学研究紀要』第95号，pp 102～103。

＜中国語文献＞

広西壮族自治区統計局（2013）『広西統計年鑑 2019』中国統計出版社。

広西壮族自治区統計局（2016）『広西統計年鑑 2019』中国統計出版社。

玉林市統計局編（2018）『玉林統計年鑑 2018』玉林市。

広西壮族自治区統計局（2019）『広西統計年鑑 2019』中国統計出版社。

宋丹彤（2021）『鄉村旅遊發展中農民利益保障問題研究』河北農業大学, pp 14～30。

（ま・まん／大学院経済学研究科博士後期課程）

（おおしま・かずつぐ／経済学部教授／2021年6月14日受理）

## Research on the Nature of Farmer-Oriented Tourism Development in Rural China

— Focusing on the Results of a Survey of Farmers in Yulin City,  
Guangxi Zhuang Autonomous Region —

MA Man

OSHIMA Kazutsugu

In recent years, rural tourism has been emphasized as a part of rural development in China.

However, it is true that rural tourism in China has achieved rapid development and is making a great contribution to the development of China's rural economy, but the economic rights of local farmers are often threatened, and the rapid increase in the number of tourists has caused deepening local environmental pollution. In particular, many farmers have lost their right to use their farmland due to development, resulting in a rapid increase in the number of farmers suffering from low income. As a result, the incomes and livelihoods of local farmers remain as low as ever, and the challenges of securing profits for the farmers themselves and distributing the profits from tourism have deepened.

This paper examines, based on a field survey, the issues of farmers' occupation, guaranteeing the rights of farmers who lost their farmland due to development, and profit sharing of tourism revenue in Yulin City, Guangxi, China, which has been rapidly transformed into a tourist destination in recent years.

In conclusion, it is argued that the will of the local farmers and the guarantee of their economic interests are important in rural tourism in China.